

祝25周年記念式典



たくさんのご支援
ありがとうございました

はぐるま

創立二十五周年記念式典報告

《式典が残したもの》

新年度がスタートした四月初め、最後の二十五周年記念実行委員会が開かれ、委員達からの感想や意見が交わされました。

準備期間中は組織・伝達の難しさを感じながらも仲間と職員が共に学習をすることによって、色々な経験をしました。「自立と共生」の思想を根底にしての発表練習と資料作りは根気の要る作業でしたが、仲間達はあきらめず、愚痴一つこぼさずやり遂げたことは評価すべき点としてあげられるでしょう。

おかげさまで滞りなく式典を終了することができました。

以下発表した事柄と作製した資料です。

一、『仲間自治会発表』

今までの全体会での発表は作業所中心でしたが今回は「ホームの生活」を演劇で発表。

仲間達の懸命さが参列した多くの方々へ伝わったようです。たいへんおもしろかった(興味深かった)とおっしゃっていました。

二十五年間変わらず行ってきたホームでの「生活のリズムを整える」の具体例が発表。

今後は「ホーム生活ガイドブック」と共に何故やるのかの学習と実践の必要性をかんじさせられました。

一、『はぐるまレシピ』作製

ホーム調理担当者の方々による、仲間達の健康状態や食べる事への要求に応えようとする日々の工夫と実践を代表的な料理にまとめた貴重なレシピです。一言でカロリー計算が

No. 43
2009年4月10日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会
後援会

川崎市多摩区菅馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

大切だと言われても伝統的食文化の中で
営々と築きあげてきた日本料理と欧米化の
中で創意と工夫が求められ、そのうえ量的
制限や病人食も考えながら作らなければな
らないという事を、克服して出来上がったレシ
ピです。

今号にその一部を挟み込みました。

一、『映像 視線の先へ』上映

記録には絵や文書、音声や写真などがあり
ますが「はぐるま」は主に文書文字で学習す
る事が多かったのではと思われまます。

仲間達の一年を言葉や文字、音響に頼るの
ではなく、行動する姿そのものに記録性と、
現在までの到達点としての元気で爽やかな、
そして未来への励みとなるような、そんな映
像になっていたのではないのでしょうか。

登山同行では、登り降りを重いカメラを持
ちながら、走ったり危険と向き合つての撮影。
見る側はそこへの思いも馳せた気持ちを持つ
ことによつて、仲間の行動への観点も変わつて
くるのではないのでしょうか。

真摯な態度で行動する仲間達を、カメラを
意識させずに撮ることは技術的にも心理的
にも、仲間達にカメラマンを受け入れるもの
がなければなしえなかった、といつても過言で
はないでしょう。

一、『だより記念号』の発行

登山合宿やスキー旅行でお世話になつてい
る、白駒荘の関原さんの書「はぐるま」を表紙
に、川口市の小原歯車工業KKのご協力でダ
ビンチの歯車スケッチを裏表紙に百ページの小
冊子になりました。

内容概略は次に通りです。

○創立二十五周年の関係者の方々の寄稿文
○高木 計さんの視線の先へ

(故人を偲び保護者、仲間達からの言葉)
○はぐるまのはじめの頃

岩田洋子さんに仲間達が聞く

○はぐるま登山活動の歩み他登山関連内容
○仲間学習資料からだのしくみと運動の意

味をしらべよう

記念号に合本

「別冊ホーム生活仲間ガイドブック」

仲間達にとつて一日の生活リズムを健康で
安定的に送るため、いつ何をどのようにすれ
ば良いのかを、ホームことや各人毎に調べあ
げて、細かい仲間なりの図解も入れ時間をか
けて作り上げています。その作業を通して、
朝夕の運動や電話点検、一日のまとめの意味
を仲間どうしが関わつて学習しました。

自分たちの生活を見つめる、良い機会となつ
たと共に、二十五年のホームの歴史の重さを
感じました。

◆三月二十日 読売ランド 花ハウスにて
仲間達による転倒防止体操きよしのズンド
コ節、中野島太鼓「風」、手話ダンスで式典前
日の決起集会は、多くの高齢者の方々が集ま
る中、大いに盛り上がりました。

おわりに来賓の方々や関係各位とりわけ
保護者や後援会の方々の温かいご協力を
深く御礼申し上げます

第31回理事会・評議委員会 報告

〔第一号議案 21年度事業計画〕

本部

① 21年3月に土地・建物(約85坪)を購入することができましたので、将来ビジョンに従って、新施設構想を具体化します。

② 本部の移転(購入した物件に移転します)

相談支援

① ケアマネジメントの技法を活用し、仲間が地域生活を円滑に送れるよう支援します

② 地域型事業所としての役割を果たすための職員を増員し、研修の充実を図ります。

日中活動支援

就労継続支援 B型・生活介護共に、将来の作業所構想を具体化するための基盤づくりを始めます。

・ 地域福祉の向上と、将来にわたって、意欲的に働きかけができる日中支援のあり方を検討します。

※ 将来構想事業計画案の中に、地域で

必要とされている事業(特に三種)に対し、「はぐるま」として取り組むのか否かという論議があります。そのことに対してのご意見がありました。

① 高齢者デイサービス

② 障害児デイサービス

③ 休日のクラブ活動

○はぐるまの起源が「成人青年期の仲間の生活と労働の場を保障する」から発していることを考えると、対象はあくまで、学校を卒業した仲間の受け皿にならなくてはならない。またここであつてきた仲間の高齢化問題だけでも、大変な課題となるので、今後の事業展開にはこのことを、十分考慮して欲しい。

○また、障害児の療育施設も絶対数が足りないのでは、はぐるままで取り組むのは良いことと思われるが、単独で事業を起すのではなく、地域の関係施設と連携の上で考えていくと良いのではないか。

今後の参考にしていきたいと思います。

休日のクラブ活動については、様々な過

し方の要求があるため、どのように支援して

いくのかを検討して欲しいとの要望がありました。現在土曜日クラブの出席数は常に二十人位が利用しています。

ホリデイ活動の出席者も多く、休日の過ごし方・職員の配置等の課題に取り組んでいかなければなりません。

ケアホーム

ホーム利用料の値上げをします。

5泊 現行39,000円→47,000円に

6泊 現行44,000円→66,000円に

値上げの趣旨説明に対し、保護者会・仲間会保護者面談を得て、全員と承諾書を交わしました。

今後は生涯の家となるホームの住環境や、生活を支える職員体制を充実させていきます。

〔第二号議案 21年度予算〕

21年4月より、サービス報酬改定が実施されます。改定されたところをピックアップしてお知らせいたします。

お知らせいたします。

生活介護事業

平均障害程度区分↓個々の障害程度区分で算定。福祉専門職員加算・6単位(3年以上の常勤職員が30%以上)

昨年度比 年間約200万円アップ

就労継続支援B型事業

基本単価のアップにより

昨年度比 年間約132万円アップ

共同生活介護事業

世話人の配置に応じた評価で、基本報酬を決定する。はぐるまでは、仲間四人に対し、世話人一・五人の配置ですので、一番高い基準となります。(四人ホームに調理員と宿直員二人配置)

昨年度比 年間約328万円アップ

相談支援事業

施設型から地域型に変わりますので

委託料が290万円から470万円にアップ

※今年度中に職員2名資格取得見込み。

○どの事業も仲間の利用実績100%として算定してありますので、入院や長期欠席がある場合は、金額が違ってきます。

○この改定は福祉に従事する職員の処遇改善や、人員確保をはかり、質の良いサービスが提供できるようにとの趣旨があつての改定で、前進が見られたのは喜ぶべきだと思います。

しかし、支援費が資金不足で2年間で破綻した過去の経験が、よぎります。

一方で、介護を受ける高齢者の負担がこの改定で増えている現実があり、小手先の改善ではなく、福祉を総合的に捕らえた、抜本的見直しがされるよう運動は継続されるでしょう。

○仲間の負担軽減については、資産要件が

撤廃され、7月より負担額が下がります。現在負担ゼロの仲間は23人(生保含む)

7月以降金額は上限3000円程度になる見込み。(運動としては全廃の方向です)

○仲間の負担軽減については、資産要件が

ゆく人 くる人



三井 弘子さん《勤続5年6ヶ月》

みどりホーム調理 退職

遠く伊勢原市から通っていました。仲間のことが好きでなければできなかつた事です。

「空気の良い田舎でゆつくりします」と言っていたように、お体を大切に田舎暮らしを楽しんで下さい。ありがとうございました。

安原 恭子さん 新採用

みどりホーム・調理 第2ホーム 土日宿直
明るく元気な方に来ていただきました。

小形 茂さん 新採用

あおばホーム 木・日曜日 宿直

今後福祉の道を進みたい、との意欲を持って取り組んでいただいています。

どうぞよろしくお願いたします